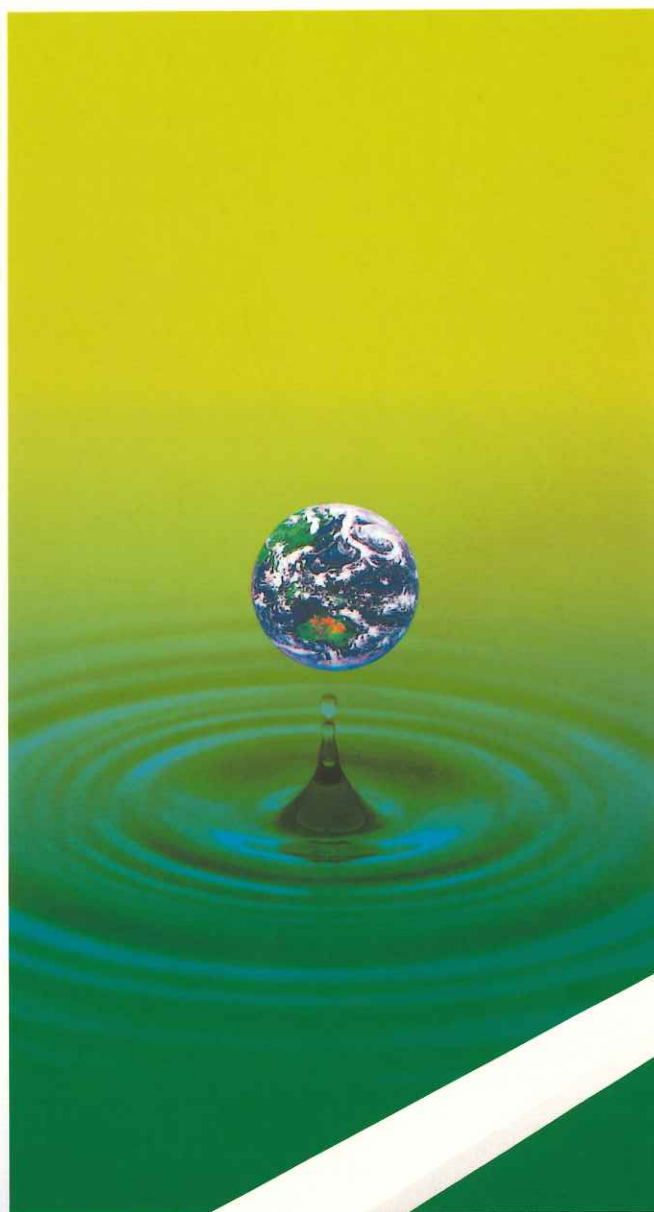


# 関西文化学術研究都市



—— 街に、ルネッサンス ——



UR

UR都市機構

## 新世紀の指針としての役割を

1970年代、世界各国の科学者、経済学者、教育者、経営者が一同に会した会議「ローマクラブ」。その報告である「成長の限界」において、現在の社会は環境破壊、資源の枯渇化、人口の増加等により生存に関わる危機に向かっており、その克服の必要性が明らかにされました。

日本においても、この人類的課題に取り組む拠点となる研究都市の建設を目指して、1978年「関西学術研究都市調査懇談会(奥田懇)」が発足。新しい時代の学術研究のあり方、都市づくりの方向性について緊迫した議論がなされ、京阪奈丘陵における、学術研究都市の建設構想が提案されました。

この構想は、産・学・官の協力のもとに計画・推進され、1987年には「関西文化学術研究都市建設促進法」が制定されてナショナルプロジェクトに位置づけられました。現在、基盤整備が進み80を越える研究施設等も立地し、順調に都市建設が進展しています。

関西文化学術研究都市(けいはんな都市)では、世界各国の文化・科学との交流の中で自然と人間の本性に正しく適合した新しい文明のあり方を探求し、来たる次世代の文化、文明を創造する「新文化首都」として、人類の平和と繁栄に貢献する21世紀のパイロットモデル都市を目指しています。

## 21世紀の文化・文明を創造する新文化首都の創設

## CHALLENGING THE FUTURE...THE NEW CULTURAL CAPITAL, KEIHANNA.

## 都市建設の理念

21世紀の文化・文明を創造する新文化首都として、日本文化2000年の揺籃の地である京阪奈丘陵に都市の骨格が形成されつつあるなか、関西文化学術研究都市は第1段階である基盤整備を終了、「21世紀のモデル都市」という都市建設理念の実現に向けて、文化学術研究の中核としての機能充実など具体的方策を掲げ、「セカンドステージ」に基づいて都市建設が進められています。

## ①文化の創造と交流

生活に経済的なゆとりが生じるとともに、人間の精神活動を高め、心の糧となる文化の重要性が高まりつつある現在、わが国全体の文化の向上を先導する文化振興の中核拠点の形成が急がれています。

一方、冷戦構造の終結とともに世界の各地で民族、宗教、地域利害の対立、紛争が多発するなか、文化の相互交流、相互理解を深め、また、日本固有の文化を世界に発信することにより、文化による国際貢献、新たな文化創造と交流の拠点の形成を目指します。

②新しい学術研究の推進  
新産業の創出

今日の世界には、地球規模の環境問題を含む人類の生存とその将来に関わる多くの難問が横たわっています。そうした地球的課題を克服するため、根底にある近代技術文明を問直し、これに代わる新しい文明を構築する必要があります。

本都市はそうした時代の要請を請け、人類的課題の解決に関する学術研究を推進するとともに、自ら科学技術の新分野を切り拓き、新たな産業の創出に取り組み、世界的経済発展への寄与を目指します。

## ③21世紀のモデル都市建設

現代の都市が直面する諸問題は、それ自体が人類にとっての重要な研究課題であり、21世紀に向けて予想される社会構造と価値意識の変化に対応するために、生活様式や社会システム、都市システムの再構築を図る必要があります。

そうした状況の下、本都市では人間居住の各側面における新しい試みを先導的に取り組み、21世紀のモデル都市として世界に貢献する都市づくりをおこなっていきます。

# 21世紀を創出する 世界に開かれた都市をめざして。

## 東の「つくば」西の「けいはんな」

21世紀に向け、いま求められているのは国際社会の一員として、学術・研究の振興を図りながら、日本独自の文化の継承、さらに積極的な国際交流・融合の中からの新たな文化の創造です。このような創造的な学問・研究の集積の活用と連携のもとに、良好な生活環境、自然環境を備え、将来へ向けての限りない可能性に対応する新しい都市の建設が要請されています。

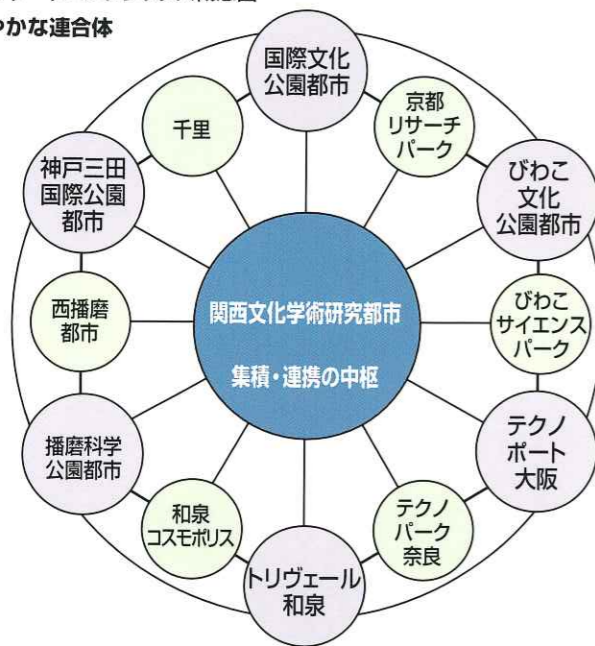
そうした状況の中、国家的プロジェクトとして位置付けられ、整備が進められているのが、東の「つくば(筑波研究学園都市)」と西の「けいはんな(関西文化学術研究都市)」です。

■関西文化学術研究都市と筑波研究学園都市の比較

比較項目	関西文化学術研究都市	筑波研究学園都市
基本法	関西文化学術研究都市建設促進法(昭和62年6月施行)	筑波研究学園都市建設法(昭和45年5月施行)
面積	15,000ha(うち文化学術研究地区3,600ha)	28,560ha(うち研究学園地区2,700ha)
開発方式	文化学術研究地区は「クラスター型開発」	研究学園地区の主要な区域は「一団地集約型開発」
事業の進め方	産・学・官を基調とした民間活力の活用	国の主導
事業主体	[文化学術研究地区] 府県、独立行政法人都市再生機構、民間	[研究学園地区] 独立行政法人都市再生機構
行政区域	3府県6市2町	1県6町村(現在は1市1町)
主な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>●複合多機能型</li> <li>●民間研究所が多い</li> <li>●交流施設及び文化面の研究施設がある</li> <li>●21世紀に向けたパイロットモデル都市の建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●首都からの国の機関の移転が中心</li> <li>●科学技術系の研究施設が中心</li> </ul>

■近畿リサーチコンプレックス概念図

ゆるやかな連合体



## 世界的な学術・研究機能の集積、新しい産業の展開 近畿リサーチコンプレックス

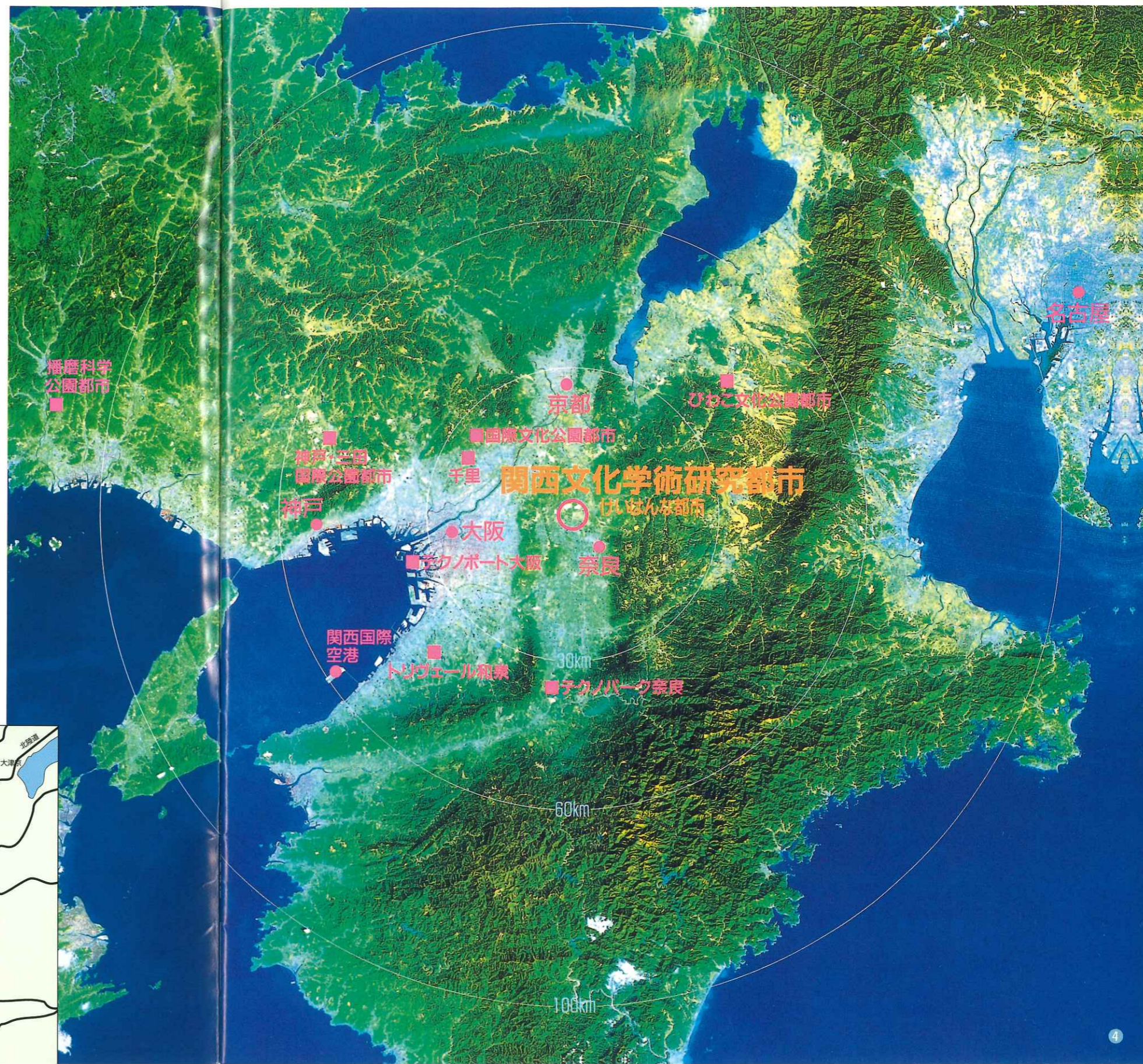
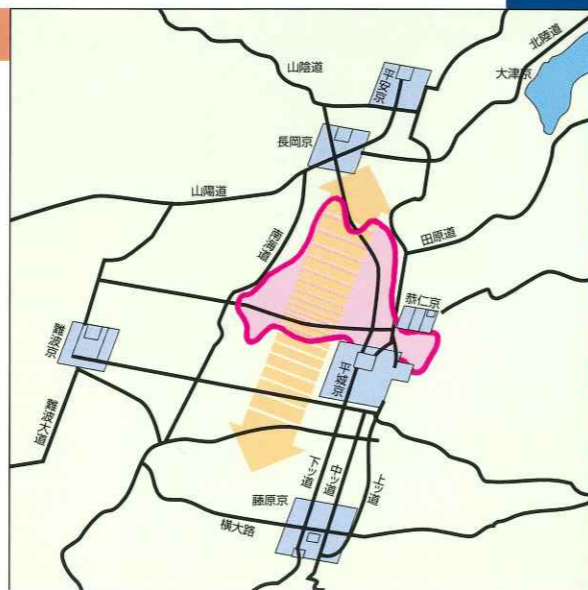
近畿圏の主要整備構想の一つを担うのが、関西文化学術研究都市を中核として近畿圏における文化、学術、研究や産業、技術等の集積と学術・研究拠点相互のネットワーク化を図る「近畿リサーチコンプレックス」です。この「近畿リサーチコンプレックス」から生み出される研究開発成果を生かし、情報通信やバイオテクノロジー、新素材などの新しい産業の展開を図ることを目的として推進されています。また、近年では本都市内における学術・研究活動において、都市内或いは都市外との連携・交流が活発になっています。

## COLUMN

### 豊かな歴史・文化・自然

けいはんな都市が位置する緑豊かな京阪奈丘陵は、古代からの歴史の宝庫。特に、古くは交通の要所であった木津川地域は飛鳥、平城京、平安京を結ぶ文化薫る地域で、多くの歴史的遺産に恵まれています。

こうした歴史的文化豊かな関西にふさわしい地域づくりを進めるため、本都市建設に当たっても、文化財の保護と活用に十分配慮し、先進性と歴史、そして自然の調和した都市づくりを進めています。



# 未来指向のパイロットモデル都市。



●京阪奈丘陵と木津川の流れ

## 産・学・官が一体となった都市建設

昭和62年(1987年)「関西文化学術研究都市建設促進法」が公布、施行され、翌年に基本方針が決定、関西文化学術研究都市建設が本格的に始動しました。その建設に当たっては、文化・学術・研究の拠点にふさわしい都市建設のため、(財)関西文化学術研究都市推進機構を中心に、独立行政法人都市再生機構をはじめ自治体や民間など、産・学・官が協力、関西文化学術研究都市建設推進協議会等とも連携しながら、都市づくりを一体的に進めるための推進体制を形成しています。

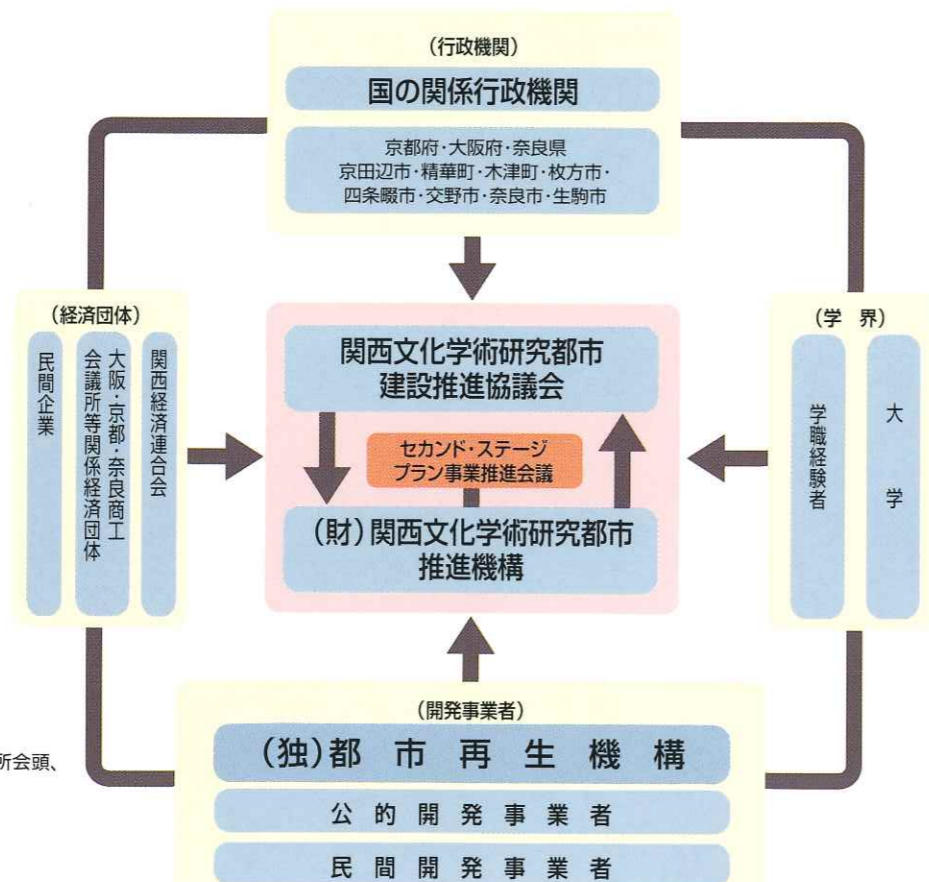
### ■関西文化学術研究都市建設推進協議会

設立/昭和58年3月15日  
 主な事業/①要望活動及び広報活動  
 ②文化学術研究施設等の誘致活動等  
 会長/荒巻 禎一  
 代表委員/関西経済連合会長、三府県知事、商工会議所会頭、学識経験者 8名  
 委員/経済団体、大学・学識経験者、行政機関及び開発事業者の各代表者 57名

### ■(財)関西文化学術研究都市推進機構

設立/昭和61年6月19日  
 主な事業/①本都市建設等にかかる調査研究及び提案  
 ②本都市建設等にかかる企画案、合意形成  
 ③文化学術研究施設の立地促進  
 ④各種情報の提供等

## ■学研都市建設の推進体制



## ①近畿圏の学術振興拠点の中核

近畿圏では、首都圏に次ぐ高次の学術研究・産業・都市機能の集積を生かし、既成大都市の学術研究機能の充実と、新たな学術研究機能の拠点整備が各地で進められており、学術研究の総合力が発揮できる圏域整備を目指しています。  
 けいはんな都市は、近畿圏の学術振興拠点の中核的役割をはたすべく、圏内のサイエンスシティ、大学等の高次学術研究集積との連携、ネットワークの形成を強く進めています。

## ②魅力ある多機能都市づくり

本都市は、学術研究機能または居住機能のような単一機能に特化した都市ではなく、人々が住まい、働き、交わり、遊ぶという多様な活動を展開する場として、恵まれた文化・歴史環境の保全・活用に配慮した魅力ある街づくりを行っていきます。



●平城・相楽地区 高の原駅周辺

## ③クラスター型の開発

本都市の建設に当たっては、計画対象エリアのなかで、小都市群からなるクラスター型開発の形態をとる都市づくりを行います。このようなクラスター型開発を行うことによって、クラスターの個性化を図るとともに開発途中でのさまざまな状況変化に対して、部分的に計画変更するなどのフレキシブルな対応が可能となります。このクラスター型開発をベースとして、都市全体としてのバランスと高水準の広域的都市サービスを確保できるよう整備を進めます。

## ④自然環境・歴史文化風土を重視した開発

本都市の立地する地域は、広がりのある奥行きのある深い自然景観と多くの歴史的景観にも恵まれており、世界に誇る未来都市にふさわしいまちづくりを進めるにあたっては、これらの景観との調和や景観形成に配慮します。

## ⑤交流施設の整備

本都市においては、各種の研究の交流、共同研究等を行うため、会議センターや宿泊施設、リース用のラボスペースなどの機能を備えた交流施設を計画的に整備します。

## ⑥産・学・官のパートナーシップ

本都市の建設は、学術・産業・行政の各分野の広範な協力を基調とし、民間活力を最大限に活用して進めるもので、これらの各分野は、適切な役割分担のもとに協力し、整備・推進されます。

けいはんな都市のあゆみ

## 昭和53年(1978年)

9月 ●奥田東氏を座長とする「関西学術研究都市調査懇談会」発足

## 昭和57年(1982年)

6月 ●国土庁「関西学術研究都市基本構想」発表

## 昭和58年(1983年)

3月 ●三府県知事、関経連会長、学識経験者等を代表委員とする「関西文化学術研究都市建設推進協議会」発足

## 昭和60年(1985年)

9月 ●「関西文化学術研究都市関係省庁連絡調整会議」設置  
 文部、厚生、農水、通産、運輸、郵政、建設、自治、科学技術、環境、国土の11省庁

## 昭和61年(1986年)

6月 ●財団法人「関西文化学術研究都市推進機構」(都市建設の促進を目的とする官民の出損)設立

## 昭和62年(1987年)

6月 ●「関西文化学術研究都市建設促進法」公布、施行  
 9月 ●「関西文化学術研究都市の建設に関する基本方針」(内閣総理大臣決定)

## 昭和63年(1988年)

3月 ●「関西文化学術研究都市の建設に関する計画」(京都、大阪、奈良、三府県知事作成、内閣総理大臣承認)  
 6月 ●住宅・都市整備公団「関西文化学術研究都市整備局」発足

## 平成元年(1989年)

8月 ●株式会社「けいはんな」(建設促進法に基づく交流施設の建設運営主体)設立

## 平成5年(1993年)

4月 ●文化学術研究交流施設「けいはんなプラザ」開設

## 平成6年(1994年)

9月 ●「けいはんな学研都市フェスティバル'94」開催(都市びらき)

## 平成8年(1996年)

4月 ●「関西文化学術研究都市セカンド・ステージ・プラン推進委員会」答申

## 平成9年(1997年)

4月 ●「関西文化学術研究都市の建設に関する基本方針」の変更(内閣総理大臣決定)

## 平成10年(1998年)

5月 ●「関西文化学術研究都市セカンド・ステージ・プランの実現化を目指して」発表

## 平成13年(2001年)

4月 ●「けいはんな新世紀戦略プログラム」公表(セカンド・ステージ・プラン事業推進会議)開催

# 広域かつ緻密に広がる 交通ネットワーク。



- 凡例
- 関西文化学術研究都市区域
  - 供用部
  - 工事中・計画中
  - 主要道路
  - JR
  - 近鉄
  - 南海
- 主要高速自動車道・有料道路

「関西文化学術研究都市(けいはんな都市)」と京都、大阪、奈良、神戸などに集積された都市機能や研究機能、そして新たに計画されている関西圏の学術研究都市群との連絡。さらには、世界各国とのリアルタイムな交流が可能な日本初の24時間空港・関西国際空港との連絡を図るため、広域的な交通・情報網の整備が進められています。

## 第二阪奈、京奈道路など整備が進む道路ネットワーク

学研都市周辺の広域交通網は、母都市から30分で学研都市中心部にアクセスできることを目標に計画、また学研都市内の交通網も、広域交通網との立地やクラスター間のアクセス等に配慮。パイロットモデル都市にふさわしい道路ネットワークとして整備が進められています。すでに第二阪奈道路、京奈道路(京奈和自動車道)が開通、第二京阪道路も整備が進められています。

## 近鉄、JRなど充実の鉄道網 京阪奈の3都心へ直通 京阪奈新線も着工

京都、大阪、奈良を結ぶ鉄道網もますます充実。学研都市からは、近鉄JRで3都市と連絡、新幹線へのアクセスも快適です。JR学研都市線・東西線の利用で大阪都心へも一直線。また、学研都市の玄関口、近鉄新祝園駅からは京都都心及び奈良へ、近鉄・京都地下鉄直通急行で一本に結ばれました。さらに学研都市と近鉄生駒駅を結び大阪都心へ直通する京阪奈新線も、平成17年度の開通を目指して着工されました。

## 約90分で結ぶ 関西国際空港アクセス

中心クラスター(精華・西木津地区)から関西国際空港へは、リムジンバス等の利用により約90分で結ばれています。



● JR学研都市線

● JR新幹線(のぞみ500系)

● 近畿日本鉄道 奈良線・京都線



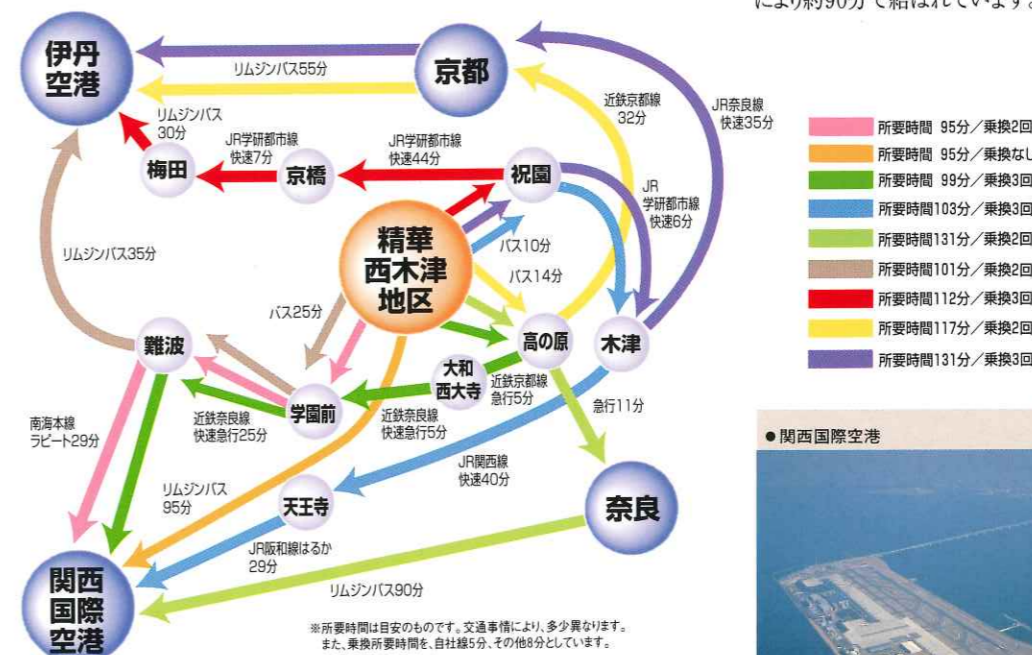
● 第二京阪道路



● 第二阪奈道路



● 京奈道路(京奈和自動車道)



● 関西国際空港





# 文化・学術・研究が交流するクラスター型都市形成・インフラ整備の状況

## 文化学術研究地区を分散配置

京都・大阪・奈良の3府県にまたがる関西文化学術研究都市の総面積は約15,000ヘクタール。全体を12の「文化学術研究地区」(約3,600ha)に分散、それ以外を「周辺地区」とし、さまざまな機能をあわせ持つ複合機能都市として開発を進めています。

## 複合機能都市としての充実した機能整備を

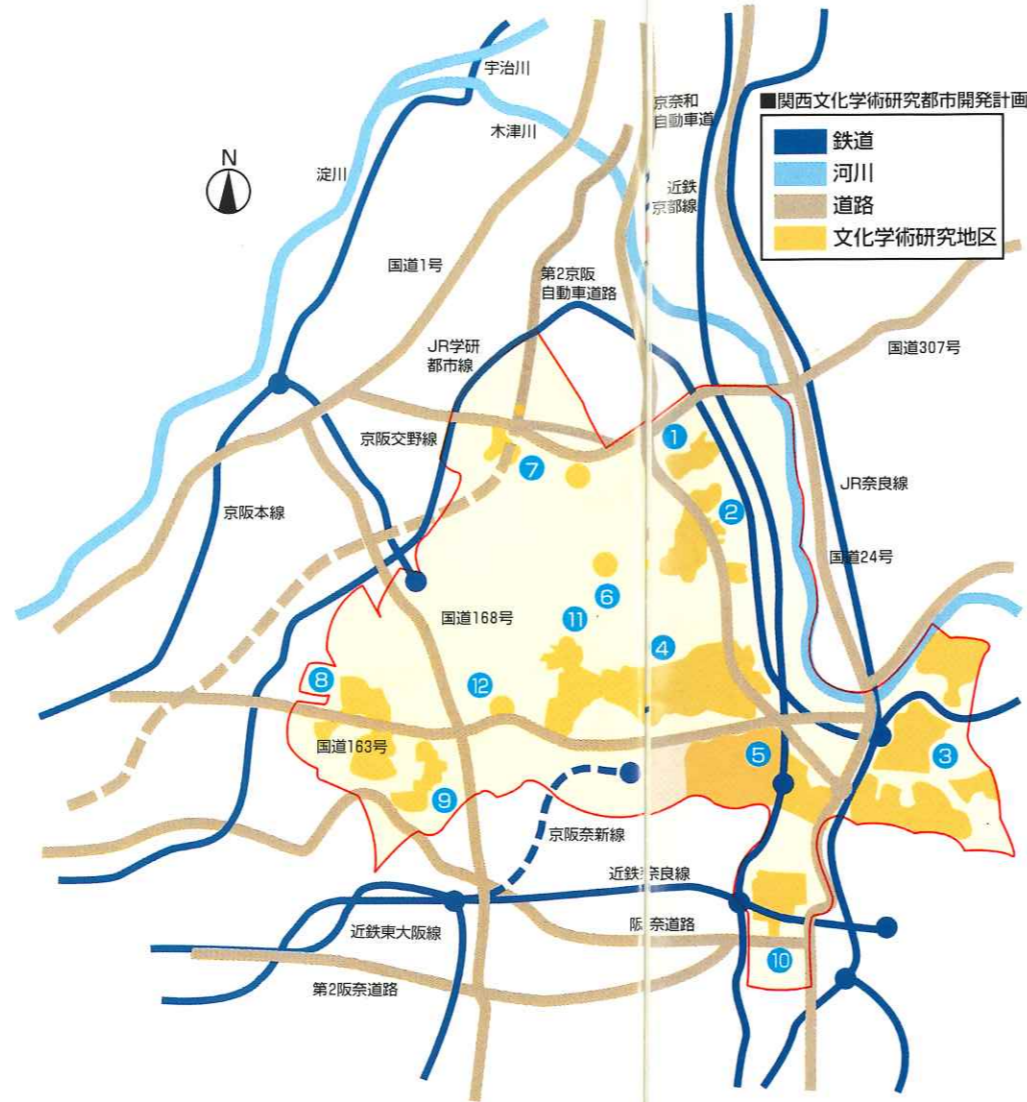
けいはんな都市の都市づくりは順調に推移し、12の文化学術研究地区のうち、既に10地区で事業着手、国際高等研究所、奈良先端科学技術大学院大学、けいはんなプラザといった中核施設が開設したのをはじめ、これまでに約80の研究機関が活動を開始しています。こうした文化学術研究地区の建設の一方、複合機能都市として、交通網の整備や研究活動や住民の生活を支援する機能の整備を随時行っています。

## 基本フレーム

項目	関西文化学術研究都市	文化学術研究地区	周辺地区
面積	概ね15,000ha 3府県6市2町 京都府/京田辺市 木津町 精華町 大阪府/枚方市 四條畷市 交野市 奈良県/奈良市 生駒市	概ね3,600ha 12地区(クラスター) 京都府域/6地区 大阪府域/3地区 奈良県域/4地区	概ね11,400ha
推定人口	概ね41万人 京都府域/19万人 大阪府域/8万人 奈良県域/14万人	概ね21万人 京都府域/11万人 大阪府域/3万人 奈良県域/7万人	概ね20万人

## 文化学術研究地区の概要

府県名	文化学術研究地区名	面積(ha)	想定人口(千人)	文化学術研究地区の整備の方針
京都府	①田辺地区	100	—	教育研究機能の整備を図る。
	②南田辺・柏田地区	338	19	教育研究施設をはじめとする文化学術研究施設、研究開発型産業施設等の整備を図るとともに、住宅施設、広域レクリエーション施設等の整備を促進する。
	③木津地区	740	40	主として自然科学系の文化学術研究施設、研究開発型産業施設等からなる研究開発、先端産業の拠点としての整備を図るとともに、大規模な住宅地としての整備を図る。
	④精華・西木津地区	506	25	都市の中央部に位置することから本都市の中心地区と位置づけ、中核的な文化学術研究施設及び文化学術研究交流施設等の集積を図るとともに、住宅施設、都市的サービス施設等の整備を図る。
	⑤平城・相楽地区(京都府域)	264	30	大規模な住宅地としての整備と併せて生活関連の文化学術研究施設、都市的サービス施設等の整備を図り、本都市における複合的都市機能を備えた先進的都市としての整備を図る。
	⑥普賢寺地区	未定	未定	周辺の優良な農地との調和を図りながら、立地条件をいかした農業系等の試験研究施設等の整備を図る。
	⑦氷室・津田地区	65	3	先端的な研究・教育施設をはじめとする文化学術研究施設、研究開発型産業施設等の整備を図るとともに、住宅施設の整備を図る。
大阪府	(本地区については、整備のための条件が整った時点で、区域の拡大を行う。)			
	⑧清滝・室池地区	340	3	自然環境の保全と緑地の回復を図りながら、自然レクリエーションの拠点としてスポーツ、保養等の施設の整備を図るとともに、研修、教育研究等を行う文化学術研究施設及び住宅施設の整備を図る。
	⑨田原地区	127	10	地区周辺の自然環境をいかし、住宅施設の整備を図るとともに、研修等を行う文化学術研究施設、産業施設等の整備を図る。
奈良県	⑩平城宮跡地区	142	1	歴史的風土、文化的遺産の保存及び平城宮跡、朱雀大路の保存整備を図りつつ、これらに配慮した文化財、考古学に関する文化学術研究施設の充実、強化並びに都市的サービス施設等の充実を図る。
	⑪平城・相楽地区(奈良県域)	362	38	大規模な住宅地としての整備とあわせて生活関連等の研究、研修を行う文化学術研究施設、都市的サービス施設等の整備を推進し、本都市における複合的都市機能を備えた先進的都市としての整備・充実を図る。
	⑫高山地区	333	24	情報通信、バイオサイエンス、材料等の先端的な科学技術分野を対象とする文化学術研究施設等、住宅施設及び自然環境をいかした総合公園の整備を図るとともに、地理的条件をいかし、本都市の中心地区である精華・西木津との機能的な連携の強化を図る。
	⑬北田原地区	未定	未定	高山地区の機能と関連した産業施設及び文化学術研究施設等の整備を図る。



学研都市では、最先端の情報通信技術のモデル実験や国際的知的交流施設・けいはんなプラザなど、文化・交流拠点の整備をソフト・ハード両面から行っています。

## 文化・交流拠点の整備



●けいはんなフィルハーモニー定期演奏会(けいはんなプラザ・住友ホール)

## ●都市の交流拠点、けいはんなプラザ(精華・西木津地区)

平成5年4月にオープンしたけいはんなプラザは都市の中核施設として、研究者などに知的交流の場を提供するとともに、都市生活上の出会いの場、憩いの場としての役割を担っています。施設内には研究活動の中心となるレンタル、レストラン、銀行など多彩な機能を備えています。



●野依良治教授(04年ノーベル化学賞受賞)の講演('03年5月)(出典:財)関西文化学術研究都市推進機構)

## 新産業推進・産学官交流

けいはんな知的クラスター創成事業、京都府地域結集型共同研究事業をはじめ、新産業創出支援事業、産学官連携を促進し、新産業・新技術創出に向けた様々な研究開発の推進や支援を行っています。



●けいはんな知的クラスター本部会

## 都市基盤整備

交通網の整備や上・下水道、河川改修等の公共施設整備が進行中、都市としての骨格を整え、さらに都市イメージを確立するための都市センターの形成など、都市基盤の整備が急ピッチですすめられています。



●京阪新線白庭トンネル(平成17年度開業予定)



●東中央線(木津南地区)美しい景観を持つ地区のシンボル道路です。



●井関川(放水路)



●けいはんな記念公園(精華・西木津地区)伝統的な庭園技法を駆使した日本庭園「水景園」やイベントに利用できる「芝生広場」などがある憩いスポットです。

## 情報基盤の整備・実験

### ●KINET(株)キネット



ケーブルテレビによる幅広い映像情報ニーズに対応した多チャンネル番組を提供するCATVの整備を進めています。(株)キネット/1993年6月開局、対象地区:京都府域の相楽地区、精華・西木津地区、木津南地区で営業中)



### ●独立行政法人 情報通信研究機構 [NICT] けいはんな情報通信融合研究センター

同センターは、超高速マルチメディア社会の早期実現を図るため、全国5ヶ所に整備された「研究開発用ギガビットネットワーク」の一環として設立された共同利用型研究開発施設です。通信網を利用した施設間での研究開発・実証評価が可能です。



■立地施設の整備状況

文化学術研究地区	文化学術研究施設等整備方針	●整備済あるいは整備中の施設	○計画中的施設
田辺地区	●教育・研究施設	●同志社大学(京田辺校地) ●同志社女子大学(京田辺校地)	
南田辺・狛田地区	●教育・研究施設 ●研究開発型産業施設 ●広域レクリエーション施設等	●ウェルサンピア京都 ●京都府花と緑の公園 花空開けいはんな ●京都府農業資源研究センター ●京都府立大学農学部附属農場	
木津地区	●自然化学系文化学術研究施設 ●研究開発型産業施設	●日本原子力研究所関西研究所光電子科学研究センター(きつぷろ光科学館ふもとん、ITBL共同利用センター)	
精華・西木津地区	●関西文化学術研究都市の中心地区 ●中枢的文化学術研究施設 ●文化学術研究交流施設 ●都市的サービス施設等	●(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR) ●(株)島津製作所 ●日本電信電話(株) ●文化学術研究交流施設「けいはんなプラザ」 ●(財)国際高等研究所(IAS) ●(財)地球環境産業技術研究機構(RITE) ●(株)三晶(株) ●(株)アスク ●(株)井上製作所 ●(株)CSK 大川センター ●エルミック・ウェスコム(株) ●国立国会図書館関西館 ●私のしごと館 ●オムロン(株) ●(株)フロンティア ●(株)井上製作所 ●カゴヤ・ジャパン(株) ●環境衛生薬品(株)(仮称) ●(株)関西電子工業振興センター[KEC] 生駒試験所けいはんな試験センター(仮称) ●けいはんなベンチャーレレッジ ●関西電力(株) ●大阪ガス(株)	
平城・相楽地区	●生活関連文化学術研究施設 ●都市的サービス施設等	●ハイタッチリサーチパーク(12施設) ●ならやま研究パーク(8施設) ●アタカ工業(株) ●奈良市北部会館	

文化学術研究地区	文化学術研究施設等整備方針	●整備済あるいは整備中の施設	○計画中的施設
氷室・津田地区	●教育・研究施設 ●研究開発型産業施設等	●関西外国語大学短期大学部(穂谷学舎) ●関西外国語大学国際言語学部 ●(株)イオン工学センター(株)イオン工学研究所 ●大阪大学大学院工学研究科自由電子レーザー研究施設 ●研究交流施設「津田サイエンスコア」 ●三晶(株) ●(株)アスク ●(株)井上製作所 ●(株)ブルミッシュ ●(株)ボールド ●(株)吉良産業(株) ●(株)高瀬産業(株)(仮称) ●(株)清和光学製作所(仮称) ●(有)坂本設計ワークスエーション(仮称) ●(株)香椎化学工業(株)(仮称) ●(株)サワーコーポレーション(仮称) ●(株)河内金属製作所(仮称) ●大阪電気通信大学(仮称)	
清滝・室池地区	●研修教育研究施設等 ●レクリエーション施設等	●大阪電気通信大学(四条観学舎) ●緑の文化園	
田原地区	●研修研究施設等	●東京海上日動火災保険(株) ●日本スピードショア(株)	
平城宮跡地区	●歴史・文化的学術研究施設 ●都市的サービス施設等	●奈良文化財研究所 ●特別史跡 平城宮跡朱雀門 ●特別史跡 平城宮跡 東院庭園 ●史跡 平城京朱雀大路 ●特別史跡 平城宮跡 第一次大極殿院復原	
高山地区	●科学技術研究・教育施設等	●(社)関西電子工業振興センター生駒試験所 ●高山竹林園 ●奈良先端科学技術大学院大学[NAIST] ●研究交流施設「高山サイエンスプラザ」 ●(株)三晶(株) ●(株)アスク ●(株)井上製作所 ●(株)カネカ ●(株)森精機製作所 ●THK(株)	
普賢寺地区	●農業系試験研究施設等	●農業系試験研究施設等	
北田原地区	●高山地区関連産業施設等	●高山地区関連産業施設等	

## 文化、 教育施設

## 研究施設

●産業開発 ●基礎、総合  
●情報通信

## 研究開発型 産業施設

## レクリ エーション、 研修施設

## 交流施設

 <p>●奈良先端科学技術大学院大学 平成3年10月開校。これまでの情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の各研究科に加え、平成14年度には情報生命科学専攻を設置。これら先端技術における次代の担い手の育成が行われています。</p>	 <p>■(財)国際高等研究所 平成5年10月開所。「人類の未来と幸福に資する新たな学問の創造と進展」をテーマに、世界から著名研究者を招いて課題探究型の基礎研究が行われています。</p>	 <p>■光子科学研究センター 平成11年開所。高性能な世界最先端のレーザー開発を行うことにより、研究・医療・産業分野での技術革新をはじめ、世界の光子科学の研究拠点を狙った施設です。</p>					
 <p>●関西外国語大学短期大学部(穂谷学舎) 昭和59年4月開校。敷地内には、教室棟、厚生棟、管理棟、グラウンド、講堂、体育館ほかセミナーハウスやコミュニティセンター等の施設を設置。米英語学科(第一部・第二部)約2500名の学生が学んでいます。平成8年4月に国際言語学部も開設されています。</p>	 <p>●国立国会図書館関西館 平成14年10月開所。世界的な規模での情報の集積・発信・研究の支援機能を担う、ニュー・テクノロジーを駆使した電子情報図書館です。</p>	 <p>■(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR) 平成元年4月開所。人工知能や次世代通信網などのマルチメディア最先端技術研究開発を進める情報通信関連の研究拠点で、国際共同研究も積極的に行われ、自動音声翻訳システムの開発などに活かされています。</p>	 <p>■(財)地球環境産業技術研究機構(RITE) 平成5年11月開所。地球環境保全に関する産業技術の国際的研究開発をめざす中核研究施設で、CO2の固定化、土中で分解するプラスチック、代替フロンの研究などを民間企業や海外研究機関との共同開発が行われています。</p>	 <p>■(独)情報通信研究機構[NICT] けいはんな情報通信融合研究センター 平成12年7月開所。情報通信システムと人(ユーザー)をつなぐヒューマンインタフェース技術とコンテンツ処理技術の研究を軸として豊かな情報生活を支える技術を目指して研究が行われています。</p>	 <p>●(株)井上製作所 平成16年4月開所。業務用温・冷蔵庫、冷温貯蔵車、解凍庫、自動販売機、省力機器、自動機械などの開発、設計・製造が行われています。</p>	 <p>●東京海上日動火災保険(株) 西日本研修センター 平成6年6月開所。</p>	 <p>●けいはんなプラザ 平成5年4月開所。文化・学術の発展・振興・研究開発に係る共同研究の推進と国際的・学際的な共同研究の企画支援をするための施設です。</p>
 <p>●同志社大学(京田辺校地) 昭和61年4月に開校。校地は教育・研究・福利厚生施設ゾーンと体育施設ゾーンに大別。工学部・工学研究科(大学院)の全学生と文科系の1・2年次生が学んでいます。また、隣接する同志社女子大も同時期に開校しています。</p>	 <p>●私のしごと館 平成15年3月開館。若い人たちが早い時期から職業に親しみ、自らの職業生活を設計し、将来にわたって充実した職業生活を過ごすことができるよう、様々な職業に関する体験の機会や情報を提供するとともに、必要な相談・援助等が行われています。</p>	 <p>■(株)島津製作所けいはんな研究所 平成3年7月開所。イオンビーム応用装置の開発などを行っているイオン工学技術、半導体レーザーや完全個体レーザーの開発及びその応用研究を行っているオプトエレクトロニクス、そして磁気磁界を計測する新機能デバイスの研究等の生体計測システムの3部門に関する研究開発が行われています。</p>	 <p>■松下電器産業(株) 先端技術研究所 平成6年4月開所。新素材や先端エレクトロニクス技術、環境保全技術の研究・開発が行われています。</p>	 <p>■(株)CSK 大川センター 平成13年4月開所。子どもたちに様々な表現やコミュニケーションを体験する機会を提供していくとともに、世界中の子どもたちが自由に交流できるインターネット技術等の研究が進められています。</p>	 <p>●三晶(株) 中央研究所 平成14年7月開所。商品に先立って「知識を売る」という理念のもと、製紙薬品、食品、工業薬品、機能紙、製紙原料、産業資材分野における応用技術の研究開発が行われています。</p>	 <p>●緑の文化園 平成3年4月全面オープン。土砂採取跡地と金剛・生駒国立公園の一部を自然公園施設として、大阪府と民間が共同で一体的に整備。自然に親しみながら、スポーツ、レクリエーション、学習など多様な文化活動の拠点となっています。</p>	 <p>●高山サイエンスプラザ 平成5年10月開所。建物内には研修室や住居、オープンギャラリーなど多彩な施設が充実。奈良先端科学技術大学院大学支援財団が行う産学交流事業や地域交流事業などの活動拠点として、研究者交流や市民交流の場となっています。</p>
 <p>●大阪電気通信大学(四条観学舎) 昭和62年10月四条観学舎開校。管理棟、厚生棟、教室棟を備えた四条観学舎には、現在、工学部960名、情報工学部190名の学生が学んでいます。</p>	 <p>●特別史跡平城宮跡第一次大極殿院復原 平成元年度より整備中。特別史跡に指定されている平城宮跡を保存整備するため、文化庁の「特別史跡平城宮跡保存整備構想」に基づき、第一次大極殿院復原が進められています。</p>	 <p>■ならやま研究パーク 平成5年6月より、研究所順次開所。中核企業1社と立地企業6社により構成。「森の中の研究所」と「地域に開かれた研究所」をまちづくりのテーマに、生活・情報関連の発信拠点、また県内産業の研究拠点として、周辺住宅地環境と調和した整備がなされています。</p>	 <p>■京セラ(株) 中央研究所 平成7年7月開所。材料から部品、部品から機器システムへと展開する事業を支える研究開発拠点として、機能材料、電子部品、デバイスの基礎研究、研究開発が行われています。</p>	 <p>■オムロン(株) 京阪イノベーションセンター 平成15年5月オムロンの技術開発の中核拠点として開所。センシング&amp;コントロール技術をコアコンピタンスにMEMS、光通信デバイス等の微細加工や顔認識等のセンシング、知識情報処理といった技術への取組が行われています。</p>	 <p>●(株)アスク 平成16年5月開所。金属、樹脂の精密部品加工及び試作部品加工が行われています。</p>	 <p>●ウェルサンピア京都 昭和63年10月開所。厚生年金保険の被保険者をはじめ、広く一般の親子二世帯交流の場として、宿泊・保養・教養文化・体育施設等の施設を備えた総合的な福祉施設です。</p>	 <p>●津田サイエンス・コア 平成7年10月開所。レストランや喫茶・会議室・テニスコート(第一期施設)等を、大阪府が設置、財団法人大阪府勤労者福祉協会が勤労者憩いの家「サンパレス」校方の分館として運営されています。また研究交流・支援施設等の設備についての将来計画があります。</p>



# 都市機構による未来都市創造・人・自然・文化が融合するアメニティ・シティ

## 各地域の個性を生かした都市形成

独立行政法人都市再生機構では、文化学術研究地区12のクラスターのうち南田辺・狛田地区(南田辺北地区)、精華・西木津地区(祝園地区)、木津地区、平城・相楽地区、田原地区、高山地区(第2工区)の6つのクラスターにおいて約1,800haの都市開発を進めています。

## 生活者や研究者の視点に立ったまちづくり

開発においては、センター、道路、公園、住宅用地、誘致施設用地を整備し、住民・研究者の快適性を高める都市環境形成を図るとともに、まち全体が知的でアメニティの高い複合都市づくりを推進。21世紀のパイロット・モデルにふさわしい先導的な取り組みを行っています。

### 都市機構施行地区の概要

府県名	文化学術研究地区名	都市機構事業地区名	所在地	施行面積(ha)	計画人口(千人)	事業手法	事業期間	備考
京都府	南田辺・狛田地区	南田辺北地区	京田辺市	63	6.1	特定土地区画整理事業	H14~H24	事業中
		木津地区	木津南地区	木津町	284	18.6	特定土地区画整理事業	S62~H20
	精華・西木津地区	祝園地区	精華町	202	9.8	特定土地区画整理事業	S60~H16	事業完了
		平城・相楽地区	相楽地区	精華町 木津町	264	30.0	特定土地区画整理事業	S52~H10
大阪府	田原地区	田原地区	四条畷市	127	10.0	特定土地区画整理事業	S58~H15	事業完了
奈良県	平城・相楽地区	平城地区	奈良市	349	43.0	特定土地区画整理事業	S45~H03	事業完了
		高山地区(第2工区)	生駒市	288(予定)	23.0(予定)	特定土地区画整理事業(予定)	—	計画中
京都府	木津地区	木津北地区	木津町	—	—	—	—	事業中止 <sup>※2</sup>
		木津東地区	木津町	—	—	—	—	事業中止 <sup>※2</sup>
合計(文化学術研究地区全体に占める割合)		10地区		1823(50.6%)	154.4(73.5%)			
文化学術研究地区(人口ベース)				(H16.9.1現在人口)59,812人/計画人口(154,400人)				

※1 清算期間を含む  
 ※2 大量の住宅・宅地の供給を目的とした事業を中止



祝園地区(精華・西木津地区)

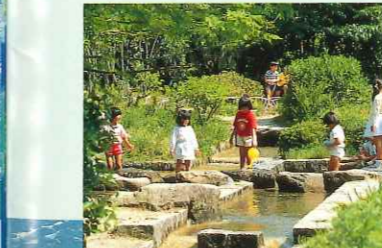


南田辺北地区



木津地区

●センター施設ノレイユ



平城・相楽地区

●高の原駅前広場



## COLUMN

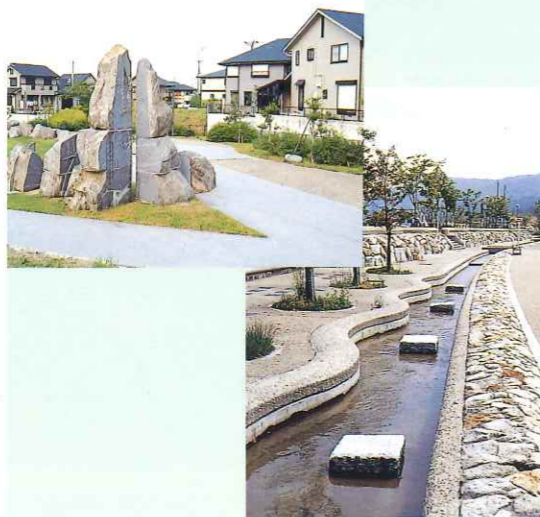
### 充実度を高める生活利便施設

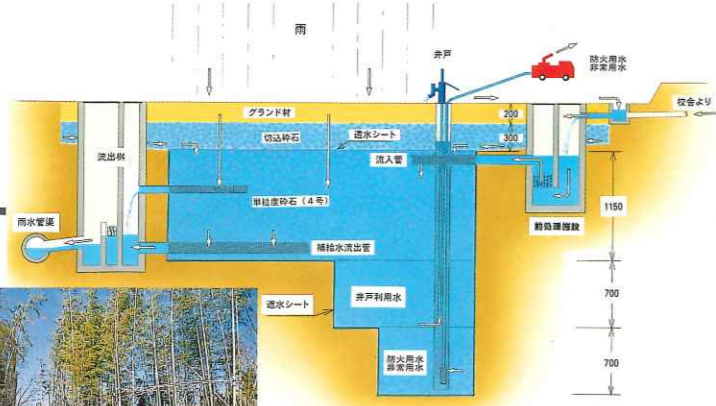


●サントウンひまわり館(平城・相楽地区)

都市機構では都市開発を進めるとともに地区の生活利便向上のため、センター地区の整備をおこなっています。けいはんな都市の南のターミナルとして高の原駅前センターには、駅ターミナルとしての機能をはじめ商業施設も集まり、賑わいを見せています。

関西文化学術研究都市センター株式会社では、生活環境の維持向上を図るためこうした地区センターや商業施設等の建設、経営、管理業務を行っています。





■樹木の移植(祝園地区)  
木津地区に生育していたモウソウは、祝園地区に移植され、地区の原風景を再現させています。

■雨水砕石地下貯留施設  
(梅美台小学校—木津南地区)  
雨水を小学校のグラウンド下部に並べた細かい砕石の空隙に貯留します。水は一部非常用水及び防火用水として活用するとともに、近くの川に放流し、自然のせせらぎを守ります。

■水景施設(精華大通り線—祝園地区)  
約330mの水の流れる歩道にはせせらぎの音が聞こえる溪流、けいはんなプラザの広場と一体化したモニュメントの噴水などを配置、美しい水景をつくっています。

## 環境との共生

自然環境の保全と創出に心を配り、心豊かな生活環境をめざし先進的な取り組みを行っています。

## 新・郊外居住の取り組み

まちに対するニーズの多様化が進む中で、魅力ある郊外居住のあり方を提案しています。



■祝園地区  
祝園地区では、家庭菜園や日曜大工が楽しめるよう線下敷きを利用し、広い庭付きの宅地を供給。新たな郊外居住の提案を行っています。



■公園発表会  
木津南地区では、地区内の小学校の生徒達が公園のデザインを立案、デザイン通りに都市機構が施工を行い、小学生の生徒たちや地元住民で公園の管理を行っていく取り組みを実施しています。

## 都市景観の形成

地区の個性を生かした道路網構成や電線の地中化を採用し、すっきりとした開放感のあるシンボル道路や外溝を統一した住宅地など、美しい都市景観を創造します。

## 高度情報基盤の整備

高度情報社会をむかえ、文化学術研究活動と都市生活を支援する情報インフラの整備を進めています。

■高度情報通信社会に向けた研究開発を行う「(独)情報通信研究機構[NICT]けいはんな情報通信融合研究センター」

センター内には、大容量データ知的処理研究開発設備や音声・映像蓄積/配信実験設備をはじめ8つの研究設備・機器が備えられています。また上記と同様のセンターは、全国5ヶ所に整備され、共同利用研究として、大学の研究機関やベンチャー企業等に開放。無限の可能性を持つ次世代超高速通信システムとして、自由な発想で広範多様な研究開発に利用できます。



- 音声・映像蓄積/配信実験設備
- 高速映像伝送実験設備
- 大容量データ知的処理研究開発設備
- デジタルコンテンツ編集支援設備
- 超高精細映像技術研究開発設備
- セキュリティ保護実験設備
- シミュレーション設備
- 各種ネットワーク環境試験設備

■シンボル道路(精華大通り線—祝園地区)  
配電線を共同溝に入れることにより、美しい街並みの景観を実現しました。



■景観に配慮した住宅地(光台住宅地—祝園地区)



■石のある公園(街区公園—田原地区)  
地区内において発生した豊富な自然石を素材として、国内外の芸術家の参画により創作されたモニュメントは、地域に密着した新しいコミュニティ空間を創造しています。



■自然の中の公園(池谷公園—平城・相楽地区)  
応援席兼休憩所のスタンドに敷き詰められた緑あざやかな芝生。周辺の里山をバックにした自然の中でスポーツが楽しめる開放的な公園です。

## コミュニティ空間の形成

地区には散策や集いの場として活用できるスポーツ施設などを備えた緑に満ちた公園を計画します。

## 歴史・文化の保全

古代の息吹きを伝える貴重な歴史・文化遺産を保全・活用した、文化の薫るまちづくりを行います。



■上人ヶ平遺跡公園(木津南地区)  
弥生時代~中世にかけての古墳群や瓦窯跡からなる複合遺跡で、平城京の瓦を焼いた全国でも例のない規模の官営瓦窯跡でもある「上人ヶ平遺跡」があります。これを保存し歴史学習に活用するとともに、公園として整備します。

■石のカラト古墳(平城・相楽地区)  
8世紀初めに築造されたと推定される上段が円形、下段が方形のめずらしい上円下方墳で、平城京の有力者のものともいわれています。



## けいはんな都市

「けいはんな」は関西文化学術研究都市の愛称です。

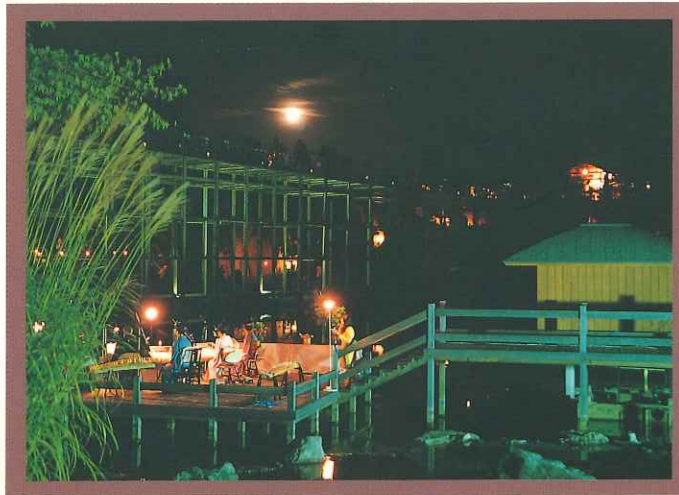
シンボルマークのモチーフは「飛天」です。

飛天とは、飛びながら天の花を散らし、音楽を奏で香を薫じる天女のことです。

やわらかな曲線は京阪奈丘陵を、

3つの形は過去・現在・未来の時の積み重ねを、また京都・大阪・奈良、

あるいは産・学・官の連帯を表現しています。



●観月の夕べ けいはんな記念公園

## 独立行政法人 都市再生機構

西日本支社 関西文化学術研究都市事業本部

〒619-0223 京都府相楽郡木津町相楽台1丁目5番地

TEL:0774-72-7766 FAX:0774-72-2646

ホームページ <http://www.ur-net.go.jp/gakken/>